

平成22年度 中学校区を単位としたジョイントプランに基づく小中一貫(連携)教育の進捗状況一覧(概略)

到達目標		宇治中	北宇治中	榎島中	西小倉中	西宇治中	南宇治中	広野中	東宇治中	木幡中	宇治小
到達目標1 中学校区を単位とした教育目標やめざすこども像などを設定できた。	成果	決定済み(さらに修正を加えた構想案も作成)	設定済み	教育目標は設定済み、めざすこども像は案を作成し最終調整段階。	検討済み	作成済み	原案作成済み	設定済み	めざすこども像は設定済み	検討中。小中一貫推進推進スロガンも案を募集して作成中。	意欲・学力・きずなを3つの柱として、前期・中期・後期を見通しためざす児童生徒像を設定した。
	課題	発達段階に応じての目標を明確にした構想案の再検討。			京都の教育振興プラン、NEXUSプランを参考にさらに検討。						
到達目標2 中学校区を単位とした小中一貫教育を推進する組織が整った。	成果	組織を整えた。	研究推進委員会を月1回程度開催した。全教職員が教科部会、教科外部会に所属。	昨年度の組織体制を改善、実践的研究ができる体制を整えた。	組織を整えた。合同研修会では教科・領域の研究部を設定し討議した。	基本的な組織・体制は整えた。	具体的取組を進める組織を整えた。	宇治ひろの学園研究推進委員会の組織が整った。	コーディネーター会議を定期的に開催、推進会議も必要に応じて開催。	組織は整えた。4小1中の全教師がいずれかの部会に所属し活動も積極的である。	小中一貫教育推進部を中心に4つの部が連携して活動した。
	課題	組織は十分に機能せず。組織の改編の検討。		各教科の接続を図るための会議設定の工夫。	教科等研究部、領域等研究部での討議内容の具現化を図る。	次年度に向けて改善点は引き続き検討中。	さらに機能的になるように一部見直しが必要。		小中一貫相互参観を学期1回実施をめざして調整中。		
到達目標3 チーフコーディネーターを小中一貫教育に係る企画、立案及び関係校の調整、広報、地域連携等の業務に有効に活用できた。	成果	チーフコーディネーターが企画・立案の原案を作成しコーディネーター間での共通理解を図った。	チーフコーディネーターが小学校の連絡・調整を行い、研究会・会議等の企画・調整も行った。	合同研修会等取組の企画・運営、広報紙発行、ふりスタなど小中連携に関わる取組を行った。	コーディネーター会議を開催。推進ニュースや合同研修会の企画・立案、小中連携等を行う。	企画・調整は十分に果たせた。	チーフコーディネーターがコーディネーターと連携し取組の企画・立案・調整ができた。	チーフコーディネーターを中心に事務局で調整し、取組を実施。ニュースも定期的に発行。	コーディネーター会議の調整、広報紙の発行、合同研修会、交流行事等の企画運営を行う。	チーフコーディネーターがコーディネーター会議等を開催し実践的目標や活動内容を協議した。	チーフコーディネーターが推進部の活動の取りまとめをし、開校に向けての会議にも参加。
	課題	短期間に調整することが難しく十分には機能したとはいえない。				曜日を決めての小学校常駐は実現できなかった。	広報、地域連携については課題が残った。				
到達目標4 中学校区を単位とした小中一貫教育の取組計画をたて、試行できた。	成果	取組活動計画を立案運営した。	取組計画をたて試行を行った。合同研修会や公開授業を行った。	実践的研究の到達目標は達成し、全面試行に入ることができる。	ブロック内で足並みを揃え、中学校の授業に期待が持てる取組を進めた。	3校管理職で協議作成した「ジョイントプラン-推進計画-」に基づき取組を進めた。	取組計画をたて、計画に従いほぼ試行できた。	年間の各部会の取組計画をたて、多少の修正をしながら実施できた。	教育課程は来年度を見通した計画をたてた。相互参観、児童生徒の交流、地域行事への参加。	外国語活動、児童生徒理解、学力充実、いしずえ、連携・交流の4つの部会で取組計画をたて、実施できた。	教科担当制を含めた学校運営体制の研究から9年間を見通した学習指導等の研究・実践へ。
	課題	調整に時間がかかり取組に計画の遅れが出た。		継続的な研究実践が必要である。							
到達目標5 教科連携教員を小中連携加配教員として小・中学校間の指導をなめらかに接続させるため、計画的に活用できた。	成果	「外国語活動」、年度後半は「書く」ことも視野に入れて取り組んだ。	連携教員が外国語活動の学習指導に入り効果的な支援が行えた。	教科連携教員による指導を計画的に行い、公開授業によって研修を深めることも取り組んだ。	体育教員が定期的に小学校で指導した。6年では中学校の生徒指導を意識した指導を行った。	教科連携教員の授業は十分な成果をあげた。	なめらかに接続させることを意識し、計画的に活用できた。	理科・算数で2小学校で毎週学習指導を行う。今年度は同じ教科を週2日、2ヶ月ごとに交替。	高学年で担任・連携加配・AETのTTで外国語活動を行う。	中学校英語科・理科教員の小学校授業実施や支援が行えた。児童生徒理解や特別支援の視点でも連携して指導。	外国語活動において、高学年を中心に指導できた。
	課題	小学校担当者と中学校担当教員の授業交流を計画したが自習する課題があり難しかった。				小学校教員の積極的なリードが望まれる。年度途中からの派遣は課題が多かった。					
到達目標6 小学校高学年で、教科担当制による指導の試行ができた。	成果	年度当初より計画し、行った。	習字、理科、図工、音楽、家庭科などで交換授業を行った。	担任間の交換授業など日常的に組織的に行った。中学年での交換授業も試行した。	高学年で教科担当制を取り入れ授業を実施した。			教科担当制による学習指導(社会、音楽、家庭、体育など)を実施できた。	体育・社会・理科等で担任間の交換授業、他学年が家庭科、書写担当など実情にあわせ実施。	2校で家庭科などで実施できた。	3年から6年まで教科数を増やしながら教科担当制を実施。
	課題			学年や学校の状況に応じて完全な実施が難しいところもある。		教科担当制による指導は年度当初の計画に入っていない。	来年度実施に向けての課題である。			隔週での教科担当制が実施できないか検討中。	
到達目標7 中学校区を単位として、いしずえ学習、宇治学の実施計画をたて、試行ができた。	成果	宇治学は交流研究を行う。小小間の取組を焦点化し、共通した学習指導計画を作成済み。	宇治学早見表を作成した。いしずえ学習は各校の取組を相互に確認し、3学期一部試行。	宇治学はプログラム原案を作成・試行・検証した。いしずえ学習は学習プログラム案一部済み。	いしずえ学習は児童生徒の実態に即した内容を精選し、補習教室やふりスタを実施した。	年度末をめどに9年間を見通した指導計画の構想を立てる予定で検討を重ねた。	いしずえ学習、宇治学のカリキュラム原案を作成した。	宇治学は各学年のテーマをもとに実施計画をたて修正しながら試行。3校とも朝読書を実施。	宇治学は各校の系統性が一致した計画ができている。	いしずえ学習は基礎学力充実のための補習・補充学習を実施。宇治学は3期に区分した学習プログラムを作成。	いしずえ学習は朝学習で読書と計算タイムを、夏休み等には補習を実施。宇治学は小中一貫を見通して実施。
	課題	いしずえ学習は各校独自で進めているため、整理が必要。			宇治学については9年間の系統性を重要視した指導計画を引き続き作成する。	小中の取組内容が相当異なり調整に手間取っている。分散校の扱いが難しい。	原案をより具体化していく必要がある。		いしずえ学習は学校により異なる。		
到達目標8 小中一貫教育の実践的研究について保護者や地域に向け情報発信できた。	成果	広報紙を年3回発行した。	地域連携ニュースを3号発行。	広報紙を年4回発行。地域や大学と連携して懇談会を実施。児童生徒・保護者交流を進めた。	推進ニュースを3回発行し、ブロック内の小中学校へ配布した。HPへの掲載も行った。	学校便りで紹介。ブロック広報紙も発行。PTA合同講演会を企画・実施、行事に相互参加。	学校便りを通じて情報発信を行う。	学校便り、3校・宇治ひろの学園のHPで保護者・地域に情報発信。新聞にも掲載依頼。	小中一貫教育だよりを年4回発行。	学校便り等で小中連携授業や地域の取組を紹介。高学年に中学校学校便り等を配布。	小中一貫校準備広報紙を発行。
	課題						ブロックとして広報紙を発行し、保護者や地域に情報発信することが課題。			小中一貫教育便りの発行とHP開設、教職員向けの通信発行を予定。	